

□一點の輝く光明 吳 三浦峯明

私が最初繪畫の美麗なを感じたのは、初めて出京して五年前の夏、上野公園の美術展覽會場に入った時で、其際是非異日歸郷するまでには、一寸した花などが畫けるように成りたいものだと思ひましたが、何分總ての點に充分な餘裕がなかつたので、そのまゝ別に畫こうともしないで居るうちに、三年四年と塵の中に過しました。銀座の商品館が繪畫陳列場になつてからは、時々行つて眺めて居ましたが、然しその頃は繪筆を更にした事がない位ですから、無論研究とか參考にとかてはなくて、唯だ奇麗な繪が見たいばかりであつたのです。それから一昨年の初秋歸郷中計らぬ病氣に罹かつたのですが、それが爲め志望の軍人になれないようなので、氣が激するといけないからとて、自分の最も好きな戰爭についての畫報や記事を見る事を止めましたが、私には兄弟がなく、而かも當時親友として近くに居ないので、失望せる身の憂愁煩悶やるせなく、怏々として居ました。然るに如何なる尊き惠に依つてか、淋しき哀れな暗黒の境遇のうちに、一點の輝く光明を

見出して大なる慰藉を得ました（現に得つゝある）のは、丁度昨年の此頃ふと美しき『みづゑ』の女神が其の御園に私を導いて呉れた事です。抑もこれが水繪好きになつた初めです。それから病後の養生がてら、常に彼の女神を慕つて、『みづゑ』の美しき愉快な御園に遊んでばかり居て、心に残る苦痛も打拂ふて居ます。實に此の女神は私の暗憺たる境遇を照らす。唯一の光明です。恐らくこれと終生相離るゝ事は出来ませんでしょう。

此の美しい御園に遊びだして得た利益といひますと、第一いつも寂寞を感じません空には絶えず變動する彩雲があつて、地には到る處に山水、林木、家或は動物等を初め、其他眼に映ずるもの總てスケッチの材料とならないものはありません、獨り汽車汽船の中に居つても、又は淋しき里の夕暮を歩いても、少しも倦まず淋しからず、常に暖き春風に浴するやうな快き樂しき心地が致します。又人の畫を見ても餘程感興が起りますが、他所へ行つて長く應接室で待たされても、一枚の畫がそこに掲げてあらば、少しも退屈を感じません。猶ほ畫をかく結果としては、圖面地圖博物の

標本を書くに大なる助けがあります。先づこれが私に與へられた顯著な利益です。他に感したことは本誌第三にある繪畫の樂といふ記事にある通りです。

□春の一日 宇陽 悲 雁 生

私は初めから摸寫は嫌であつたのです、よし好としても臨本を買ふ餘財がありません。昨年の春一日友と共に戸外に出かけました、出来もしないのに寫生とは何と押の強い事では御座いせんか。當地でも景色の良い處を撰んで行きましたが扱て何處を寫したら面白い繪が出来るか彼處は廣くて描ぬ此處は繁雜で到底出来ぬと三脚の据處に迷ひました。終に之なら描け様と思ふた處がありましたから其處に三脚を据えました。何しろ初めてですから、輪廓を取るのに苦心致した勿論着色はより以上の苦心を致したのです、此の時後に書生が二人立て何か悪評をして居る様子に氣が付た時私は生きて居る思は有りませんでした。おそらくは友も同感であると思ひます。繪が出来るとそこへ道具を片づけ友に別れ家へ歸て額に入れ吊しました此の時の愉快さは未だ忘れられぬのであります、恐らく繪を描かぬ者には知り難い樂であると信じて居ります。